

日本臨床外科学会 国内外科研修報告

東京医科大学病院消化器・小児外科分野の『美しい手術』に触れて

北里大学医学部一般・小児・肝胆膵外科学

五十嵐一晴

この度、日本臨床外科学会国内外科研修プログラムにより、令和3年11月1日から11月12日までの2週間、東京医科大学消化器・小児外科分野において国内研修をさせていただきました。このような貴重な機会をあたえてくださいました、日本臨床外科学会 万代恭嗣会長、国内外科研修委員会 高山忠利委員長に深く御礼申し上げます。そして、コロナ禍で緊急事態宣言下の状況であったにも関わらず、今回の研修を受け入れてくださいました東京医科大学消化器・小児外科分野 土田明彦先生、永川裕一先生をはじめスタッフやレジデントの皆様にご心から感謝申し上げます。

膵切除に関し、当院ではこれまで腹腔鏡下膵体尾部切除術を導入後、定型化を行い、その安全性、有用性について学会等でも報告してきました。さらに2016年より腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術を導入し、少しずつ定型化に近づけている段階にありました。その中で当院では2021年度より、ロボット支援下腹腔鏡下膵切除に関しても導入していく方針となりました。これまで東京医科大学肝胆膵外科の先生方が、腹腔鏡あるいはロボット支援下腹腔鏡下膵切除術に関し多くの学会、論文等でまさに『安全で美しい手術』をご報告され、詳細な解剖認識と、優れた視野展開や手術技術、連携の取れたチーム力に強く感銘を受けてきました。膵切除に対する先生方の熱意を間近に感じることで、個人としての手術解剖の理解、手術方法を含めたスキル向上のみならず、チーム形成、さらにはロボット支援下腹腔鏡下膵切除の安全な導入に大いに役立つであろうと考え、国内留学の研修先として希望させていただきました。

日々のカンファレンスでは永川先生やスタッフの先生方を中心とした入念な術前症例の検討、術後患者の把握、手術手技についてのディスカッションに参加させていただき、症例の豊富さと、精緻な周術期管理、細部にわたる手術手技への妥協なき指導を実感しました。手術では目的の一つであったロボット支援腹腔鏡下膵頭十二指腸切除術を間近に見学することができました。そこにはまさに『美しい手術』がありました。『美しい手術』を実現するためには、①解剖（脈管周囲組織）を理解すること（静脈周囲は外膜、動脈周囲は神経繊維を露出するように残すべきものと切除すべきものを判断）、②ポートで規定される軸を理解すること（切除方向とポート位置の軸が合うように術野展開する）、③切離部は面を形成すること（最小単位の面は三角であり、術者と助手で三角展開する）等が重要であることを学びました。しかし何よりも術者、助手のみならずチーム全体が手術を理解し、安全かつ正確かつスピーディーに手術を行うことが重要であると実感しました。東京医科大学病院には様々な施設から研修あるいは出向という形で勤務されている先生も多く、同世代の先生が解剖を深く理解し、同じマインドを持ち、美しく、スピーディーな手術を体現されており、大変感銘と刺激を受けました。学会などでも日々活躍されている先生方から手術についての様々な話が聞けたこと、この様なつながりの輪ができたことは今後の私の財産となりました。また、われわれの施設と同様にロボット支援腹腔鏡下膵頭十二指腸の立ち上げ早期であった三重大学病院にプロクターとして招聘された永川先生に同行させていただきました。新技術の立ち上げ時の工夫や改善点、注意点等大変勉強になる経験でした。無理なお願いを引き受けてくださり、三重大学病院肝胆膵・移植外科分野 水野修吾教授、岸和田昌之先生、栗山直久先生をはじめ、スタッフの先生方にこの場をお借りして改めて深く感謝申し上げます。

新しい技術を導入する際には安全を第一に考え、準備を入念に行い、Hybrid手術からはじめる、ある

いは低難度手術からロボットに慣れること、手術時間が予想よりも延長したり、出血量が多くなった場合には開腹移行を躊躇ってはいけないということもご指導いただきました。ロボット手術が今後も増加することが予想される現状でどのように若手を教育していくのかについて、永川先生はステップを設けてトレーニーへの教育を行っていました。ロボットトレーニング施設にて模型（腸管ゴム、風船等）を用いた胆管空腸吻合をビデオでとり、CRでその手技を評価し、手技が安定していれば実際の臨床でトレーニーが再建から行うというものです。大変参考になるトレーニング方法だと思いました。

2週間という短い期間ではありましたが、やはり『間近に体感する』ということがいかに重要であるかをこの国内研修で実感しました。自施設での経験のみでは体感し得ない、国内屈指のhigh volumeセンターでの手術への緊張感や熱意は私の心を強く刺激し、今後の外科人生に大きな糧となりました。改めてこのような機会を与えていただき、関係者の皆様に深く感謝申し上げます。

最後に、ご推薦いただいた北里大学大学一般・小児・肝胆膵外科学 隈元雄介教授、快く送り出していただいた教室員の先生方に感謝申し上げます。今回の経験は私の外科医人生の財産となり、これからの診療への新たなモチベーションを高める良い機会になりました。必ずやこの経験を生かして『美しい手術』を目指して日々精進いたします。

